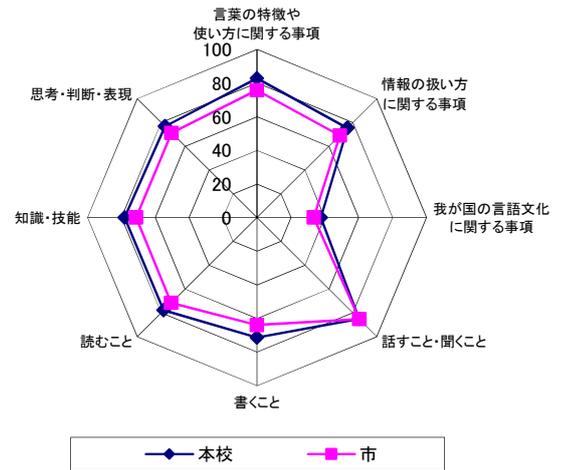


宇都宮市立岡本北小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

| | | 本年度 | | |
|-----|-----------------|------|------|------|
| | | 本校 | 市 | 参考値 |
| 領域別 | 言葉の特徴や使い方に関する事項 | 82.9 | 75.8 | 77.5 |
| | 情報の扱い方に関する事項 | 75.4 | 69.1 | 67.0 |
| | 我が国の言語文化に関する事項 | 37.7 | 33.5 | 37.2 |
| | 話すこと・聞くこと | 85.2 | 85.5 | 86.5 |
| | 書くこと | 71.3 | 63.9 | 65.8 |
| | 読むこと | 77.9 | 71.6 | 69.5 |
| 観点別 | 知識・技能 | 78.1 | 71.3 | 72.9 |
| | 思考・判断・表現 | 76.7 | 71.3 | 71.4 |
| | | | | |

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

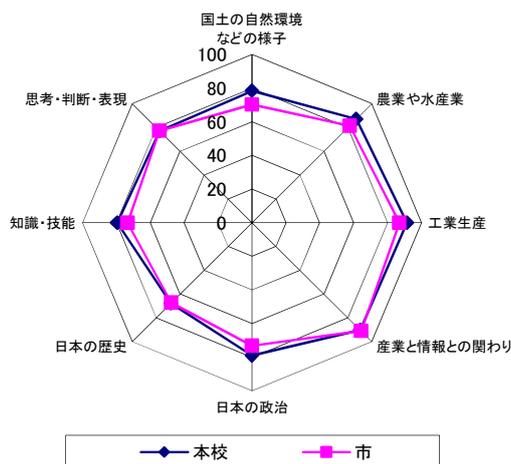
| 領域 | 本年度の状況 | 今後の指導の重点 |
|-----------------|--|--|
| 言葉の特徴や使い方に関する事項 | 平均正答率は、市の平均より高い。 ○漢字の読み書きに関しては、正答率が高い。 ●熟語の成り立ちに関する設問は、市の平均を1.6ポイント下回っている。 | ・漢字の読み書きについては、引き続き指導を続けていく。 ・熟語の成り立ちについての学習は単元の学習が終了した後も年間を通し、折に触れて指導を続けていく。 |
| 情報の扱い方に関する事項 | 平均正答率は、市の平均より高い。 ○原因と結果など情報と情報の関係について理解しているかを見る設問の正答率は75.4%で、市の平均より6.3ポイント高い。 | ・引き続き、文章の情報を整理する学習活動を計画的に行う。 ・総合的な学習の時間や情報を収集しまとめる学習において、複数の情報から必要な情報を選び、取捨選択する活動に力を入れていく。 |
| 我が国の言語文化に関する事項 | 平均正答率は、市の平均よりやや高い。 ○語句の由来に関心をもち、和語・漢語・外来語について理解しているかを見る設問の正答率は37.7%で、市の平均を4.2ポイント上回っている。 | ・語句の由来や和語・漢語・外来語などの学習内容を継続的に行うようにする。 |
| 話すこと・聞くこと | 平均正答率は、市の平均とほぼ同じである。 ●大まかな話の内容は捉えられているが、意図に応じた質問の工夫についての設問で市の平均を5.7ポイント下回っている。 | ・国語の授業だけではなく全ての学習活動において、話を聞く際には要点を落とさず、話の順序や文の構成に気を付けながら聞く習慣を身に付けられるようにする。 ・学級活動などの話し合い活動においても、意図に応じた質問の工夫を取り入れながら学習を進めていけるようにする。 |
| 書くこと | 平均正答率は、市の平均より高い。 ○条件に合わせて文章を書く設問や目的や意図に応じた書き表し方については、市の平均を大きく上回っている。目的に応じて、文章を簡単に書く設問については、市の平均とほぼ同じであった。 | ・引き続き、指定された長さで文章を書いたり、自分の意見とその理由を明確に書いたりする学習活動を意図的に設定するようにする。 ・文章を端的に書く活動についても計画的に取り入れて指導していく。 |
| 読むこと | 平均正答率は、市の平均より高い。 ○物語の内容の読み取りについては、すべての設問で市の平均を上回っている。 ●説明文の内容の読み取りでは、目的に応じて文章の情報を整理して書く設問の正答率が、市の平均を1.0ポイント下回っている。 | ・説明文では、読み取ったことを要約する学習を丁寧に行い、段落同士の関係について正しく捉えることで、学習内容を理解できるようにする。 |

宇都宮市立岡本北小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

| | | 本年度 | | |
|-----|--------------|------|------|------|
| | | 本校 | 市 | 参考値 |
| 領域別 | 国土の自然環境などの様子 | 78.4 | 70.3 | 66.4 |
| | 農業や水産業 | 87.1 | 81.6 | 75.3 |
| | 工業生産 | 91.4 | 87.0 | 77.7 |
| | 産業と情報との関わり | 90.3 | 91.0 | 81.3 |
| | 日本の政治 | 79.0 | 73.2 | 75.3 |
| | 日本の歴史 | 67.7 | 67.4 | 68.5 |
| 観点別 | 知識・技能 | 79.5 | 73.5 | 72.5 |
| | 思考・判断・表現 | 77.1 | 77.3 | 71.5 |

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

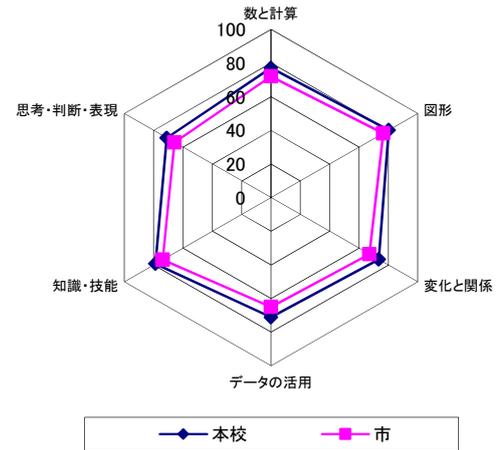
| 領域 | 本年度の状況 | 今後の指導の重点 |
|--------------|--|---|
| 国土の自然環境などの様子 | 平均正答率は、市の平均より高い。 ○「世界の中の国土」では、日本の周辺の海洋名についての設問の正答率は95.2%で、市の平均正答率を10.5ポイント上回っている。 ○●季節風についての設問の正答率は市の平均を7.6ポイント上回っているものの、66.1%となっている。 | ・温度差による気圧の変化や季節風について、地図帳を利用し山脈・地形と重ね合わせながら視覚的に捉えられるようにするなど、いくつかの資料を関連付けて考えられるようにする。 ・「なぜ冬の関東は晴れが多いのか」「なぜ北陸は雪が多いのか」など、日常生活から問いを見出し、地域のくらしや住居の工夫と関連付け、理解を深められるようにする。 |
| 農業や水産業 | 平均正答率は、市の平均より高い。 ○米の生産が盛んな地域についての設問の正答率は、91.9%で、市の平均正答率を8.2ポイント上回っている。 ○米の品種改良についての設問の正答率は74.2%で、市の平均を7.9ポイント上回っている。 | ・米の品種改良や出荷について、生産者の願いや工夫と関連付けて考えられるようにする。また、地図や図表を重ね合わせ、その地域の特性と生産性の結び付きを多角的に分析できるように指導していく。 |
| 工業生産 | 平均正答率は、市の平均よりやや高い。 ○日本の貿易の変化について、帯グラフを読み取り、文章で記述する設問の正答率は82.3%で、市の平均を4.9ポイント上回っている。 ○自動車の製造工程についての設問の正答率は93.5%で、市の平均を4.9ポイント上回っている。 | ・複数の資料を関連付けて活用することで、工業生産の工夫や変化が人々の生活や社会に与える影響について、理由や背景を踏まえて説明できるようにする。 ・学習した内容を身近な製品や生活場面と結び付けて考える活動を取り入れることで、工業生産の役割をより主体的に捉えられるようにする。 |
| 産業と情報との関わり | 平均正答率は、市の平均とほぼ同じである。 ○実生活と情報を生かした産業を結びつけて考える設問の正答率は95.2%で、市の平均を2.1ポイント上回っている。 ●情報の発信と受信の注意点についての設問の正答率は85.5%で、市の平均を3.5ポイント下回っている。 | ・情報発信や受信の具体的な場面を想定した資料や事例を活用することで、情報の正確性や安全性、受け手への影響を意識して行動できるようにする。 ・情報の利便性と課題の両面に目を向けた話し合いや振り返りを取り入れることで、情報を適切に選択し、責任をもって活用できる態度を育成できるようにする。 |
| 日本の政治 | 平均正答率は、市の平均より高い。 ○日本国憲法における人権についての設問の正答率が82.3%で、市の平均を13.5ポイント上回っている。 ●租税の役割についての設問の正答率が64.5%で、市の平均を2.5ポイント下回っている。 | ・租税の仕組みや役割について、身近な職業や施設などを例に挙げるなどすることで関心を高め、理解できるようにする。 ・AIDリルや演習問題を適宜活用し、基本的な知識の定着が図れるようにする。 |
| 日本の歴史 | 平均正答率は、市の平均とほぼ同じである。 ○源氏物語に使われた文字についての設問の正答率は93.5%で、市の平均を20.5ポイント上回っている。 ●禁教と鎖国についての設問の正答率は58.1%で、市の平均を8.0ポイント下回っている。 ●弥生時代についての設問の正答率は40.3%で、市の平均を6.5ポイント下回っている。 | ・児童が日本の歴史に興味をもてるような資料や教材を意図的に活用し、学習意欲の向上を図れるようにする。 ・調べ学習を効果的に取り入れ、児童が課題について探求し、主体的に知識を広げ深められるようにする。 ・授業内や振り返りの時間を活かし、資料とキーワードを結び付けて学べるような工夫を行う。 |

宇都宮市立岡本北小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

| | | 本年度 | | |
|-----|----------|------|------|------|
| | | 本校 | 市 | 参考値 |
| 領域別 | 数と計算 | 77.2 | 72.1 | 74.6 |
| | 図形 | 80.2 | 76.5 | 76.1 |
| | 変化と関係 | 73.3 | 67.1 | 59.7 |
| | データの活用 | 71.1 | 65.0 | 64.5 |
| 観点別 | 知識・技能 | 78.8 | 73.8 | 74.7 |
| | 思考・判断・表現 | 71.1 | 65.8 | 61.9 |
| | | | | |

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

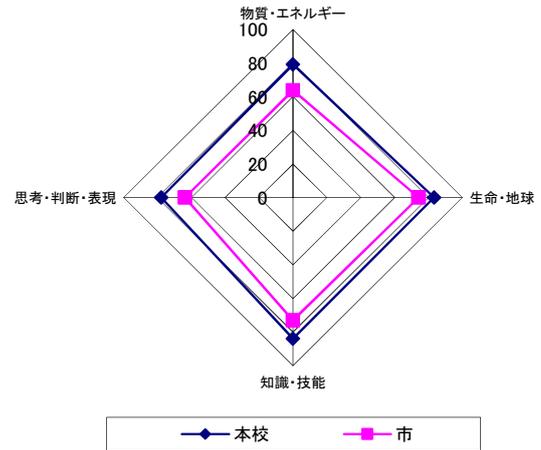
| 領域 | 本年度の状況 | 今後の指導の重点 |
|--------|--|--|
| 数と計算 | <p>平均正答率は、市の平均より高い。</p> <p>○文字を使って、2つの数量の関係を1つの式に表す設問の正答率は84.1%で、市の平均を18.7ポイント上回っている。</p> <p>●分数の計算において、分数倍の比較量を求める式を選ぶ設問の正答率は65.1%で、市の平均を7.5ポイント下回っている。</p> | <p>・朝の学習や家庭学習の機会等を利用して、繰り返し計算練習を行い、基本的な計算力の定着に向けて指導を継続する。</p> <p>・分数の計算については、整数や小数で既習した内容が分数でも通用することを確認したり、図を用いて視覚的に倍率を考えられるようにしたりするなど、これまでの学習と関連付けた授業の展開や教材を工夫する。</p> |
| 図形 | <p>平均正答率は、市の平均よりやや高い。</p> <p>○複雑な立体の体積を2つの直方体に分けて求める設問の正答率は82.5%で、市の平均を13.5ポイント上回っている。</p> <p>●線対称な図形の対応する点について求める設問の正答率は39.7%で、市の平均を11.4ポイント下回っている。</p> | <p>・今後も、具体物を操作したりタブレットを活用したりする機会を多く設け、図形の基礎・基本の定着を図れるようにする。</p> <p>・線対称な図形については、紙を折って対応する点が重なることを物理的に確認したり、線対称な図形を作図したりするなど、実際に操作することを通して、線対称な図形の性質の理解が深まるようにする。</p> |
| 変化と関係 | <p>平均正答率は、市の平均より高い。</p> <p>○基準量と割合から比較量を求める設問の正答率は81.0%で、市の平均を22.3ポイント上回っている。</p> <p>●速さと時間から道のりを求める設問の正答率は85.7%で、市の平均を1.6ポイント下回っている。</p> | <p>・単位量あたりの大きさの概念を確実に理解できるよう、実生活の場面や図を用いて場面を整理するなど、丁寧な指導を継続する。</p> |
| データの活用 | <p>平均正答率は、市の平均より高い。</p> <p>○円グラフを正しく読み取る設問の正答率は68.3%で、市の平均を11.6ポイント上回っている。</p> <p>●値に0がある分離量の平均を求める設問の正答率は69.8%で、市の平均を1.2ポイント下回っている。</p> | <p>・今後も、グラフやデータの見方の問題演習を重ねて基礎基本の定着を図れるようにする。</p> <p>・分離量の平均を求める指導については、身近な具体例で「ならず」操作をさせるなど、平均の意味理解が深まるようにする。</p> |
| | | |
| | | |

宇都宮市立岡本北小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

| | | 本年度 | | |
|-----|----------|------|------|------|
| | | 本校 | 市 | 参考値 |
| 領域別 | 物質・エネルギー | 79.2 | 63.8 | 61.6 |
| | 生命・地球 | 83.3 | 74.1 | 73.3 |
| 観点別 | 知識・技能 | 83.9 | 73.0 | 71.3 |
| | 思考・判断・表現 | 77.8 | 63.8 | 62.5 |
| | | | | |

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

| 領域 | 本年度の状況 | 今後の指導の重点 |
|----------|---|---|
| 物質・エネルギー | <p>平均正答率は、市の平均より高い。</p> <p>○電磁石の力の強さを変える要因を指摘する設問の正答率は76.6%で、市の平均を23.7ポイント上回っている。</p> <p>○正しい手順の仕方を選ぶ設問の正答率は87.5%で、市の平均を24.4ポイント上回っている。</p> <p>○水溶液に溶けている物質に関する設問の正答率は54.7%で、市の平均を23.6ポイント上回っている。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・実験結果のまとめ方や図表・グラフの読み取り方の理解を深められるよう、引き続き授業の展開を工夫する。 ・実験結果から考察する際に、友達や他のグループとの結果を比較したり、考えを交流したりする場を設定することで、根拠を明確にして結論を導き出せるようにする。 |
| 生命・地球 | <p>平均正答率は、市の平均より高い。</p> <p>○流れる水のはたらきにおける侵食という言葉の理解を問う設問の正答率は84.4%で、市の平均を23ポイント上回っている。</p> <p>○動物のからだのつくりとはたらきにおける仮説を確かめる実験を選択する設問の正答率は85.9%で、市の平均を21.2ポイント上回っている。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・重要語句を知識として覚えるだけでなく、それを基盤にしてグラフや表を読み解くことで何が分かったのかを児童が実感できる授業を引き続き展開する。 ・生命の連続性や周囲の環境との関係の中で生きていることを考え実感できるような場を設けるなど、児童の自然を愛する心情や主体的に問題解決しようとする態度を育てる。 |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |

宇都宮市立岡本北小学校 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

| 重点的な取組 | 取組の具体的な内容 | 取組に関わる調査結果 |
|--|---|--|
| 学業指導の充実と「宇都宮モデル」を踏まえた授業実践、及び創意工夫した家庭学習の習慣化 | 学びに向かう集団づくりと児童が意欲的に取り組む授業づくりの双方を関連させて指導を進めると共に、宇都宮モデルを活用した授業や単元展開の工夫を通して、学級経営力と授業力の向上を図っている。 家庭学習を必須の課題と自主学習の二本立てとし、基本的な学力の定着と家庭学習の習慣化、学習意欲の向上を図れるようにしている。 | 「勉強が好き」や「各教科の学習が好き」等の設問について、学年や項目間のばらつきが大きく、市の平均を上回っているものと下回っているものどちらも見られる。また、学業指導に関わる設問についても、同様の傾向が見られる。 家庭での学習時間について、十分な学習時間を確保できている学年が見られる一方、市の平均を下回っている学年も見られる。家庭学習の量的な面を意識するとともに、自主学習等で家庭学習の習慣化と質の向上を図っていきたい。 |
| 主体的に学び考えを広げ深める児童、協働的な態度の育成を目指した授業づくり | 児童が主体的に取り組める課題を設定し、各教科のねらいを達成に向けて、グループや学級全体での協働的な話し合いを取り入れた授業づくりを進めている。 振り返りの時間を充実させ、学習を自己調整し、学びを次の学習に繋げ、生かすことのできる児童の育成に努めている。 | 「学習に進んで取り組んでいる」や「学習しておもしろいと思う」等の設問への肯定的回答の割合は、多くの学年で市の平均を上回っている。「グループの話し合いに自分から進んで参加している」についても市の平均を上回っているが、「ものごとをいろいろな視点や立場から考えている」については、学年間のばらつきが大きい。 「学習した内容を次の学習につなげることができる」については、多くの学年で市の平均を上回っている。「新しく習ったことは繰り返し練習している」については、上学年は市の平均を上回っているものの、下学年は市の平均を下回っている。 |
| 1人1台端末、ICTを活用した授業展開の工夫や地域の教育資源や教育力を有効活用した学習指導の充実 | タブレット端末の日常的な利用を推進すると共に、「リアル」と「デジタル」のベストミックスされた学習活動の実現を目指し、活用方法についての情報交換と改善を図りながら、児童の学びの充実に生かせるようにしている。 | 「調べたことをパソコンを使ってまとめることができる」や「パソコンを使って相手に分かりやすく自分の考えを伝えることができる」等、ICTを活用した授業に関する設問への肯定的回答は、ほとんどの学年で市の平均を上回っている。引き続き、タブレット端末の効果的な活用方法について、工夫、改善を図れるようにしていく。 |

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

| |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> 児童の主体的な学びを促せるよう課題設定を工夫すると共に、学ぶ意義を感じたり学習意欲の向上を図ったりできるよう日常生活との関連を図った単元・授業構想を推進する。また、基本的な学習内容を定着できるよう、児童一人一人の理解度や到達度を基にした各教科の授業構成や単元展開、個別支援の工夫を図る。 学習のねらいに応じた話し合い活動を、全教科、領域で適宜実施し、友達から学ぶよさを実感できるようにするとともに、児童の学びを広げたり深めたりできるようにする。また、児童の学びを次の学習に繋げ生かす学習サイクルを確立できるよう、授業構成や単元展開の工夫を図る。 家庭学習について、①必須の課題(宿題)と②自主学習の二本立てを継続する。①で基本的な学力の定着を図るとともに、②で学習の計画を立てたり個々に目標をもたせたりすることで、各学年の発達段階で求められる知識や技能を生かす学びの調整力と、一人一人の学習意欲の向上、家庭学習の習慣化を図れるようにする。 「リアル」と「デジタル」のベストミックスされた学習活動について、引き続き情報交換と改善を図り、児童の学力向上に繋がられるようにする。 |
|---|